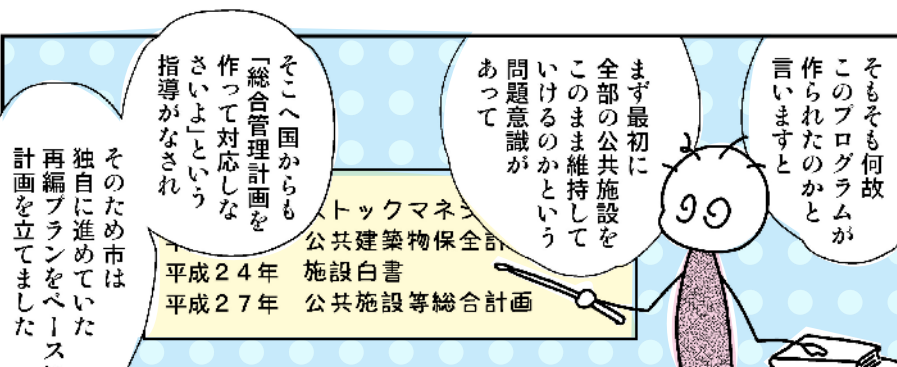


## 伊地智恭子の一般質問② わがまちに必要な施設をどう残すのか

前回のレポートでも取り上げた「公共施設の見直し方針と行動プログラム」は、その名の通り施設の今後をどうするかとめたものです。策定は2013年ですが、そこに至るまでには多摩市ならではの事情がありました。



そもそも本市は、他自治体と比べて公共施設が多いまちと言われてきました。更にはいくつかのコミュニティセンターや温水プールなど、贅沢な造りの建物が多いのも特徴です。

少子高齢化と人口減が進む社会で、市が今後の施設管理に危機感を持ったのは当然のことでしょう。ですが、それならば**なぜ税金を投じるすべての施設をまとめて洗い出さないのでしょうか**。施設の所管は違っても、「全体の管理維持」という目的のためにはその作業が必要不可欠なはずなのです(マンガの最後に記した通り、総務省も総合的な管理を推奨しています)。

「機能重複があり利用者の少ない施設をなぜ存続させるか」質問したところ、「**行政の総合的な判断による**」という答弁でした。それで市民への説明責任を果たせるか、私は甚だ疑問だと感じています。

ところで自作の「施設リスト一覧」はそれなりに反響があり、希望する議員にはファイルをプレゼントしています。自慢ではなく、皆それぞれに資料の必要性を感じていたのではないのでしょうか。私は、職員からでも市民からでももし要望があれば、ファイルをお渡ししてもよいと思っています。

その情報は市のものであり、皆で共有し、市の未来のために皆で考える材料となるものなのですから。

更に私は、上記の「全庁的な部署」を議会の側でもつくるべきだと考えています。パルテノン多摩の特別委員会が発足したのは画期的なことですが、市内全体の施設問題を俯瞰し考える持続的なセッションが、これからの市議会内には必要不可欠なのではないでしょうか。

▶ 多摩市の今と未来を考える伊地智渾身のコミック「タンバリン通信」、タスキがけで絶賛配布中!

